

新しい年度の3回目のASSETSは、「世界平和」に関するものです。日本は表面上とても平和のように見えるので、あなた達は「平和」や「戦争」は遠い過去の問題だったと考えておられることでしょう。確かに災害は多くなりましたが、沖縄県のように日本のゆがんだ姿の犠牲となっている県を除けば、確かに仕事がある限り、食べることができないとか住む場所がないということはないでしょう。その意味ではとても幸せな国であると思います。自民党という欠陥政党による日本の支配が変わらないのは、国民がこのままでもかまわないというくらいに、幸せを感じているからであると思います。ただ、現在の世界は密接につながっており、しかも最新の兵器は強力で、人類の破滅の日はいつ来るのかわからないような時代になっています。世界平和を実現し、世界のすべての国の人々が人間らしく生きていける世界をいつも意識して、学び、行動してください。次回のASSETSでは楽しくて明るい記事を貼り付けますので、今回までは厳しい記事であることについてお詫びします。

【下】中国では、第二次世界大戦の敗北で日本が撤退した後、蒋介石の国民党と、毛沢東の共産党との戦いが再発し、毛沢東が勝って1949年に中華人民共和国を建国し、蒋介石は台湾に逃れました。ですからもともとは中国と台湾は一つの国でした。そのため中華人民共和国は、建国時から一つの中華人民共和国を願い、台湾を自国の一部にすることを考えていました。国力が弱い頃には何もできませんでした。今のような強大な国家となった中国は、いつ台湾に侵攻するかわからなくなっています。もし侵攻するならばその時は無人のドローンによる攻撃になると言われています。この中国と軍事的に敵対関係にあるアメリカは、多数の軍事施設を置いている日本を拠点にして、中華人民共和国と戦う可能性があります。今現在では、アメリカは自分では闘わないで、日本を使って戦わせようとしている見解もあり、戦前と同じ思想を持つ右翼思想家の安倍晋三氏や高市早苗氏などは、このようなアメリカの口車に自ら乗って、中華人民共和国と戦うべきであると主張されています。日本が危険な状況にあるのです。今現在も沖縄の南方の島々での軍事力の強化がなされています。知っていますか?・・・答えは簡単です。中国と戦争などしないで、そして無駄なお金を使って兵器を買わないで、中華人民共和国とそしてアメリカとも同じように仲よくすればよいだけのことです。これがあなたたちに課された宿題です。中国は怖いという人がたくさんいますが、その人たちはウソつきなのです。戦争をして兵器を売って儲けようと考えている、日米の巨大な軍事企業の主張なのです。ちょうど第二次世界大戦の時と同じなのです。決して騙されてはいけません。だって習近平氏は、日本ともそしてそれ以上にアメリカとも仲よくしたいと願っておられるのですから。同じようにロシアのプーチンさんも、EUや日本と仲よくしたいのです。プーチンさんはロシアの豊富な資源をEUや日本に売って自分の国民が豊かになることを願っておられるだけであり、戦争など願ってはおられないのです。それではなぜこのような問題が起こるのでしょうか?答えは簡単です。世界が仲良くなると大損をする企業があるからなのです。その中心が巨大なアメリカの軍事企業であり、実はこの世界最強の軍事なおかつ政治の集団が、世界が仲よくすることを阻んでいるのです。このような見解は現在では普通の考えになってきています。ノーム・チョムスキー博士やオリバー・ストーンさんそしてドイツの元首相のシュレーダーさんのような人たちの見解を学んでください。世界平和は不可能ではないのです。

【左下】 2022年2月1日にロシアのラブロフ外相が言っているように、ロシアがウクライナを攻撃するというのは、「アメリカがウクライナを焚き付けているから」であり、ロシアはアメリカがNATOをロシアに近づけない限り侵攻などはないと主張しています。それに、ウクライナ人の半数はロシアに戻りたいと望んでいるのです。また、台湾問題などの問題も、同じ文脈で考えると、南シナ海の問題も含めて、「アメリカが戦争を望んでいるのだ」と考えるのが自然だと思えるのですが、いかがでしょうか。皆さんしっかりと知識を身につけたうえで、自分で考えそして家族で議論してみてくださいませんか?

過去の日本の軍人による満州事変も日中戦争も、戦後のインドネシアやチリやアルゼンチンなどの世界中の民主化運動に対するテロもベトナム戦争もイラク戦争もすべてアメリカの軍事企業が絡んでいるのですから。尚、アメリカの軍事企業が儲ければ、日本も分け前にあり付けるので、戦争が起こった方が日本の経済はうまくいくのでしょうか。とてつもない皮肉というか嫌みを述べているのですが。





TAIWAN ON THE BRINK?
中台間の紛争は無人機が火ダネに

【分析】台湾の防空識別圏に侵入する中国空軍の作戦は仮に無人機が導入されれば一気に危険度を増す

トピアス・バーガース (慶應義塾大学サイバー空間研究センター特任助教授)
スコット・N・ロマンコウ (カナダアルバータ大学中国研究センターフェロー)

Special Report MILITARY

中

軍事機密が流出し、台湾の防空識別圏に侵入する中国空軍の作戦は、仮に無人機が導入されれば一気に危険度を増す

【分析】台湾の防空識別圏に侵入する中国空軍の作戦は、仮に無人機が導入されれば一気に危険度を増す

Special Report

MILITARY

ア

軍事機密が流出し、台湾の防空識別圏に侵入する中国空軍の作戦は、仮に無人機が導入されれば一気に危険度を増す

【分析】台湾の防空識別圏に侵入する中国空軍の作戦は、仮に無人機が導入されれば一気に危険度を増す



DEATH FROM ABOVE

空からドローンが死を降らせる

現代が学べる 志 成 館

